

哲學研究

第三十六卷 第一冊

第四百十一號

昭和二十七年九月十八日發行

朝永三十郎博士追悼號

カントに於ける睿智的世界の構造……………高坂正顯

力動的恒常性……………下程勇吉

場と物質……………朝永振一郎

哲學史家としての朝永先生……………野田又夫

朝永博士追憶（佐々木惣一・天野貞祐・佐武安太郎・

山内得立・日高第四郎・田中美知太郎・三井浩）

朝永博士略年譜

京都大學文學部内
京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行う
 - (一) 毎月一回研究會を開く
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委嘱する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年八四〇圓、又は半年四二〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

京都哲學會役員

委員

井	山	矢	三	松	野	西	長	田	武	高	關	島	下	重	上	白	有
島	内	田	村	尾	田	谷	尾	中	内	田	原	芳	程	澤	野	井	賀
	得	部		義	又	啓	雅	美	義	三	太	勇	俊	照	二	織	太
勉	立	郎	勉	海	夫	治	人	郎	範	郎	郎	夫	吉	郎	夫	尙	郎

最後に、朝永先生の辿られた途を全體として回顧するに、先生は御自身の哲學の立場を、主としてカント以後十九世紀の汎神論と自然主義とに對する批判を通じて、固められたのであつたが、その後は主としてカント以前の近世哲學の史的研究に向はれた。さうしてすでに見たやうに、深い用意をもつて歴史の知慧を學びとられたのであつた。いまこの近世前期哲學への傾倒の結果をもつて、ふたたびカント以後の哲學の吟味に臨まれたならばどうであつたらうか。十九世紀ならびに二十世紀の哲學に對して新たな鋭い對決を示されたことであらう。哲學史家と體系家とが逆說的に相補ふ所以をさらに鮮かに示されたことであらう。——先生の近世哲學史の第二冊以下が與へられずに終つたことはまことに残念といふほかはないのである。

(筆者 京都大學文學部「西洋哲學史」助教授)

(了)

前 號 目 次

フランツ・ポアズ(愛前)……………堀 喜 望

—その歴史の概念について—

超越論的演繹の生成……………森口 美都男

—一七七〇年代のカント—

書評 ルカツチ「若いヘーゲル」(橋本益雄)

書評 昭和廿七年度京大文部部哲學科講義録目録

書評 昭和廿七年度春期學術大会報告目録

「哲學研究」第三十五卷目次

次 號 豫 告

力と生命……………澤 瀧 久 敬

フランツ・ポアズ(愛)……………堀 喜 望

—その歴史の概念について—

書報 アメリカ研究京都セミナー記事

哲學・印度哲學部臨時報告目録

院號法名、澄泉院釋信慧。享年八十歲七月。

同年十月、六月執筆の「古人劉苦光明必盛大」西田博士の書、「西田幾多郎全集」附録に掲載さる。十二月、「吾人」追悼號。昭和二十七年四月、文庫版「近世における我の自覺史」角川書店發行。九月、「哲學研究」追悼號。

附記

この「略年譜」は、去る三月、角川文庫版「近世における我の自覺史」のために作製した「年譜」から、同店編輯部の希望もあつて一般讀者のために挿入した事項（一般史及び京大人等に関する）を削除し、新たに先生の御家族、御住居等に關する事項を増補したものである。資料は先生の著作、書簡（作者宛）、御直話並びに秀子令夫人及び御長男振一郎氏の談話其他、京大文學部三十周年史等の編纂物である。先生の「日記」其他の資料にもとづき、精確、周密な「年譜」が一日も早く完成されることを願つてやまない。

（一九五二・八・三一、 三 井）

京都哲學會公開講演會豫告

時 十一月十五日（土）午後一時半
處 京都大學文學部第八教室

發生的見地よりみたる視知覺空間の問題

京都大學助教授 岡 原 太 郎 氏

聖アウグスティヌスに於る人間論の構造

九州大學教授 長 澤 信 壽 氏

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けず、入會希望の方は京都市左京區田中西浦町弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費（年八四〇圓又は半年四二〇圓）をお拂込下さい

「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」

一、會費切れの場合は封封に「前金切」の印を捺し、すから直ちに御拂込下さい、一年分（又は半年分）會費は原則として本誌十二冊（又は六冊）の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年（又は半年）毎に精算します

一、會員の職居入退會等（編集事務以外の一切）の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい

一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄附雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區田中西浦町
京都大學文學部内

昭和二十七年九月十五日印刷
昭和二十七年九月十八日發行

編集人

京 都 哲 學 會
京 都 大 學 文 學 部 内

右代表者

發行人

三 村 勉
酒 井 明

印刷人

伊 藤 久 春
京 都 市 田 中 西 浦 町 四 〇

印刷所

弘 文 堂 印 刷 部
京 都 市 田 中 西 浦 町 四 〇

發行所

株 式 會 社
弘 文 堂
東 京 都 千 代 田 神 田 駿 河 縣 四 〇 四

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金郵稅共（一部、定償七十圓・郵稅八圓）前金にてお送り下さい

一、特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

和
二
十
七
年
九
月
十
五
日
印
刷
（
一
月
一
日
）

THE JOURNAL
OF
PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXVI

September, 1952

No. 1

Dedicated to the Memory of
Dr. Sanjuro Tomonaga

*The Structure of Intelligible World in the
Philosophy of Kant*..... Masaaki Kôsaka

The Principle of Dynamical Constancy..... Yûkiichi Shitahodo

Field and Matter..... Sin-itirô Tomonaga

Professor Tomonaga as a Historian of Philosophy..... Matao Noda

Dr. Sanjûrô Tomonaga (1871-1951):

*Reminiscences by Sôichi Sasaki, Teiyû Amano, Yasutarô Satake,
Tokuryû Yamauchi, Daisirô Hiduka, Michitarô Tanaka and Kô Mitsui*

An Abridged Chronological Synopsis of Dr. S. Tomonaga's Life

Published Monthly

By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan